

IUGS, 日本学術会議との共催でシンポジウム“Geohazard Risk Reduction: Geological Sciences for science and society”を開催しました（2018/11/13-14）

テーマ：ジオハザード，2011年東北地方太平洋沖地震
場所：災害科学国際研究所

2018年11月13-14日に、International Union of Geological Sciences (IUGS), 日本学術会議 IUGS 分科会との共催でシンポジウム “Geohazard Risk Reduction: Geological Sciences for science and society” を開催しました。13日に開催されたシンポジウムでは、約30名の参加があり、地質災害に関する発表が行われました。災害科学国際研究所からは、災害リスク研究部門の今村文彦 教授（所長）、後藤和久 准教授と地域・都市再生研究部門の泉貴子 准教授による講演があり、活発な議論が行われました。

14日には、後藤和久 准教授を引率者として津波被災地で巡検が行われ、松島町、仙台市、名取市を訪れました。そして、2011年東北地方太平洋沖地震津波の実態や被害、地質調査に基づく古津波記録の妥当性等について議論が行われました。



シンポジウムの様子



仙台平野での巡検の様子（大久保泰邦氏撮影）

文責：後藤 和久（災害リスク研究部門）